第３学年　　国語科　学習指導案

本時の主張

３学年の物語文の「読むこと」の学習において，人物の行動や会話に着目して気持ちを想像することを大切にしたい。本教材においては，中心人物じんざの心情の変化を場面の移り変わりや登場人物との関わりなどから想像して読み取る力を高めたい。これまでの「読むこと」においては，出来事の順序や場面ごとの人物の心情を読んできた。6月実践における「ゆうすげ村の小さな旅館」においては，登場人物の心情を，叙述を基にして想像する学習を行った。そして，読み取ったことを基にして，場面ごとに「今日のつぼみさん」をまとめる学習を継続してきた。子どもたちは，「様子を表す言葉」や「会話」などが心情の読み取りの手がかりになることを理解することができた。本教材は，中心人物だけでなく，気持ちの変化をもたらす対人物がはっきりとしており，その二者の関係において中心人物の心情が変化していることが分かる。中心人物の心情を読み取ることができる言葉を「気持ちポイント」とし，これまでの学びを生かして「行動」「様子」「会話」などに着目して，サイドラインを引かせ、それを手がかりにして心情を考えさせる。また、中心人物の心情変化をとらえさせたいことから，物語全体を通して「気持ちレベル」を位置付ける。「元気」「やる気」を１～５の座標に位置付けるものとする。中心人物の心情の移り変わりを可視化してとらえさせたいことや，レベルの位置づけは根拠となる叙述を述べる必要感を生むよさがあると考えたからである。また，前場面の心情にも目を向けて考えさせるよさもあると考える。

単元における学びのゴールは，「お気に入りのじんざに手紙を書く」こととする。そのために，場面ごとに「今日のじんざ」をまとめる活動を位置付け，終末においてそれを振り返ることで「お気に入り」を決めてそのじんざに手紙を書かせたい。３年生にとって，相手意識をもって書くことは意欲を高める意味でも大切なことであると考える。手紙は相手がはっきりとしていること，相手の行動に対する自分の思いが書けることなどの理由から，手紙をゴールの活動に位置付ける。手紙をクラスで読み合うことによって，選択した場面や中心人物の行動の違いをとらえさせ，感じ方の違いに目を向けたい。

本時は，３場面において，中心人物であるじんざの会話や様子から心情が最も高まっているところを考える活動を位置付ける。場面内でも心情が徐々に高まり，最後に大きく高まっていく様子を，叙述と関連させてとらえさせたい。心情を読み取ることができる叙述に着目し，場面の様子を想像しながら心情の高まりをとらえさせることをねらい，次の４つの手だてを講ずる。

手だて１　男の子とのかかわりで心情の高まりをとらえさせるために，３場面の「気持ちポイント」と「気持ちレベル」を問う。

手だて２　「気持ちポイント」を時間に沿ってＡ～Ｃに整理し，どこで最も「気持ちレベル」が上がったのかを問う。

手だて３　じんざのやる気の高まりをとらえるために，「Ｂではだめか」を問う。

手だて４　場面内の「気持ちポイント」をたどり，「今日のじんざ」を「まとめ」として書く。

これまでの研修において，「学びの深まり」と「振り返りの質」が私の課題となっている。本時の取組においては，「学びの深まり」ととらえたい姿は大きく二つある。一つ目は，「気持ちポイント」から心情の高まりを考える際に，他の選択肢と比較して考えることである。二つ目は，友だちとの交流において他者の意見を共感的に聞き，自分の意見への理解を強くしたり，意見を変えたりする姿としたい。振り返りの質を高めるために取る手だては同じく二つである。一つ目は，書かせる前に１時間の学びを黒板でなぞる際にキーワードを強調することと，場面内でも気持ちが徐々に変化していることをとらえさせることである。自らの授業改善の課題を踏まえつつ，取組を進めたい。

１　単元名

読んで，感そうをつたえ合おう

教材文　「サーカスのライオン」（東京書籍　新しい国語３年下）

２　単元の目標

○　中心となる人物の気持ちの変化を考えて読み，「お気に入りのじんざ」を伝え合うことができる。

３　単元の評価規準

関心・意欲・態度	Ｃ　読むこと	言語についての知識・理解・技能
・　物語を読むことに興味をもち，中心となる人物の気持ちの変化を考えようとしている。	◎　それぞれの場面での人物の気持ちをとらえ，場面の移り変わりに合わせて変化する人物の気持ちを考えながら読んでいる。 C(１)ウ ◎　物語を読んで感じたことや思ったことを伝え合い，一人一人の感じ方の違いに気付いている。 C(１)オ	・　自分の感想を表現するときに役立つ語句を増やしている。 伝国(１)イ(オ)

４　単元の指導計画(全 12 時間)

一次(2 時間)　中心人物（じんざ）へ手紙を書くというゴールを確かめ，学習の見通しをもつ。

- 「お気に入りのじんざ」を選んで手紙を書くことを提示する。この物語においては，じんざの心情変化が描かれることを確かめ，教材文を読み，読後に初発の感想を書く。
- 初発の感想を交流し，「感想」「みんなで話し合いたいこと」から学習計画を立てる。

※　朝学習の時間に国語辞典を使った意味調べを行わせる。

二次(6 時間)　中心人物じんざの心情の変化を読む。

- 心情変化が読み取れる叙述を「気持ちポイント」とし，その叙述からじんざの心情を想像する。
- 「気持ちポイント」で心情の高さを「気持ちレベル」に位置付け，変化の様子をグラフ化する。
- 「時間を表す言葉」で場面分けをし，場面ごとに最も気持ちの変化があったじんざの様子を「今日のじんざ」として一文まとめをつくる。
- 心情レベルの変化を見て，物語全体を通した中心人物の気持ちの変化を確かめる。
- 「題名は『じんざと男の子』ではだめか」を問い，本文を読み直す。

三次(2 時間)　「お気に入りのじんざ」を選んで手紙を書く。

- 場面の読み取りでまとめてきた「今日のじんざ」をもとに「〇〇なじんざへ」と題する手紙を書かせる。
- じんざの表情や行動，会話などから想像した心情や，その感想を加えてじんざへ語りかける文体で書かせる。

５　本時の計画（６時間目/全１０時間）

（１）　本時のねらい

- ３場面のじんざの心情を考える活動において，じんざの様子を表す言葉や男の子との関わりを表す叙述に着目して話し合うことを通して，中心人物じんざは，明日男の子がサーカスに来ることを知って，火の輪くぐりのやる気を高めたことが分かる。

（２）　本時の構想

導入においては，前時の「気持ちレベル」を確かめ，本時の場面では「高まっているのではないか」という見通しの基に音読に入れるようにする。音読においては，心情が読み取れる叙述である「気持ちポイント」を探しながら読ませることとする。見付けた「気持ちポイント」は拡大した教材にラインとして残すと共に，黒板にも重要語句を位置付ける。「気持ちポイント」を交流すると，前場面と比べてその数の多さに気付くであろう。これは「気持ち」が大きく動いている場面であることを理解するきっかけとなると考える。そこで，「気持ちポイントが多いが，『気持ちレベル（座標：１～５)』はいくつか」を問う。前場面よりは高まっていること，この後もお話が続くことなどから「４」に位置付ける。その後，出された「気持ちポイント」が時間の経過から３つに分けられることを示し，Ａ～Ｃに位置付ける。このＡ～Ｃのうちのどこで「気持ちが大きく高まったのか」を課題として問う。気持ちの高まりを叙述内の表現に求め、「(ここ）だ。(こう書いてある）から。」の２文で付箋紙に書かせる。

展開においては，まず課題に対する答えを各自に考えさせ、Ａ～Ｃのいずれかにネームプレートを貼らせる。Ａ～Ｃのいずれの立場にどれくらいの人がいるのかを確認する。「ばらけているようだ」「固まっているようだ」の分布を確認してグループ交流につなぐ。グループにおいては，付箋紙を整理したり移動したりしながら，証拠となる叙述を交流させる。「気持ちポイントの手がかりである『元気』と『やる気』の両方が高まっていることが分かる場所はどこか」を相談して決めることをめあてにして活動させる。話し合いを経て，ホワイトボードに意見をまとめさせ，黒板へと位置付ける。位置付いたホワイトボードを基に全体交流をする。そこでは，３場面においては，男の子とのかかわりから徐々に「元気」や「やる気」が高まっていることを確認する。Ｃの意見へとまとまった場合には，「Ｂではだめなのか」を問い，「気持ちポイント」をなぞりながらＣで心情が最も高まっていることを確認する。

まとめは，「課題に対する答え」と「今日のじんざ」を書くこととする。「男の子とのかかわり」「サーカスに来ると知った」「火の輪を五つに」などをキーワードにしてこの場面のじんざをまとめたい。振り返りは，三文作文を継続する。「今日したこと」「じんざの気持ちレベルが上がった理由」「気持ちレベルが上がったことが分かる表現」の３つをキーワードとして作文させる。本時設定した「Ｃ」で気持ちが最も高まっていること、男の子が明日来ることを知ったことが大きく影響していることに触れている記述をＢ評価とする。

（３）　本時の展開

学習活動	教師の働き掛けと予想される児童の反応	■評価基準　〇留意点
導入 1　前時の学びを確認し，本時のめあてをとらえる。(2 分) 2　３場面の「気持ちポイント」を確認する。(5 分)	T1 「まえばなし」からのじんざの心情レベルを見てみようね。やる気をなくしていたじんざが，男の子との出会いで「気持ちレベル」が上がったんだね。「むねのあたりがあつくなった」などの「気持ちポイント」があったね。 T2 今日のめあては「『３場面のじんざ』をとらえよう」ですね。 C1 「気持ちポイント」が分かればできるよ。 C2 「気持ちレベル」が上がってきているんじゃないかな。 T3　では「気持ちポイント」を探しながら３場面を読んでみよう。 T4　「気持ちポイント」は見付けられたかな。 C3　「足をそっとかくした」は気持ちポイントです。 C4　「目を細めて」もそうだな。 C5　「ねむらないでまって」も，そうだ。 C6　「のり出して」も，気持ちポイントじゃないなか。	〇　前時に位置付いた「気持ちラベル」を見せ，１場面から少しずつレベルが上がっていることを確かめる。 〇　本時の「めあて」は学習計画上に位置付いているものを確認する。 〇　音読は起立して１回，着席して１回の計２回させる。 手だて１「気持ちポイント」「気持ちレベル」を問う。 〇　「気持ちを読み取れる(想像できる)叙述」を「気持ち

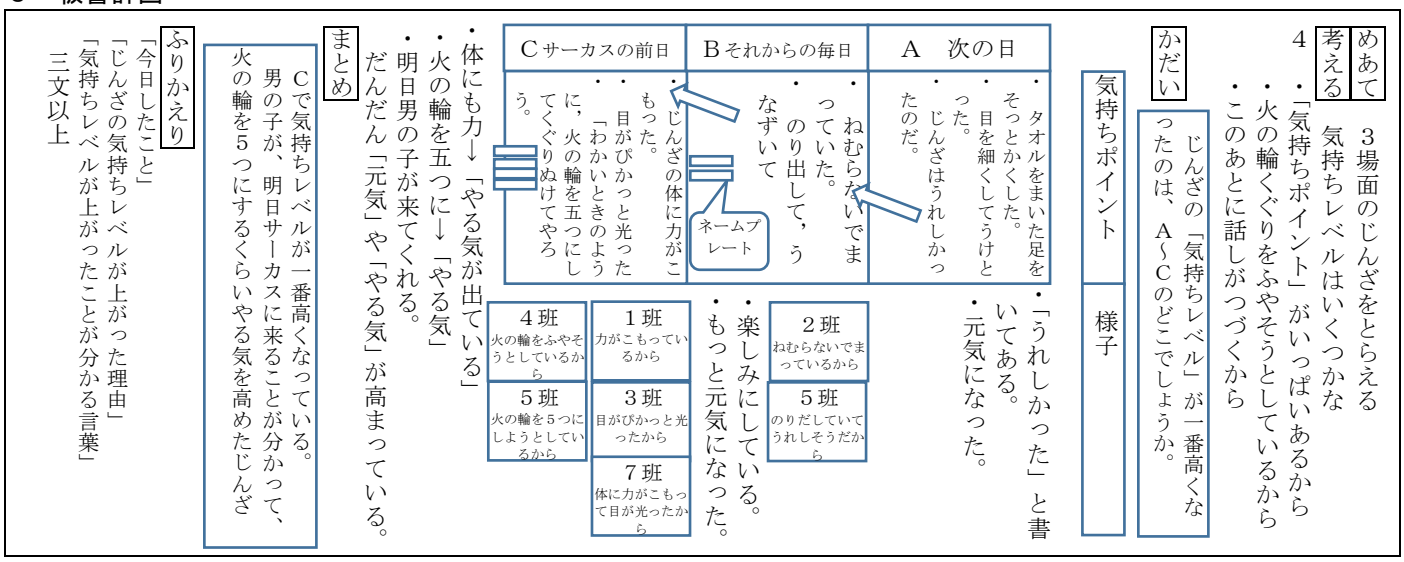
3　3場面の「気持ちレベル」を確定する。 (5分) 課題提示	C7　「体に力がこもった」も気持ちポイントだ。 C8　「目がぴかっと光った」も，気持ちポイントなんじゃないかな。 C9　「ようし，あした……」も気持ちポイント言葉だね。 T5　なるほど。この場面には「気持ちポイント」がたくさんあることが分かるね。 「気持ちレベル」はいくつかな。 C10 前の場面は男の子が「ライオンが好き」と言っていたことから「気持ちレベル」が「３」になっていたね。 C11 「気持ちレベル」は「４」だと思う。「気持ちポイント」がいっぱいになっているからね。 C12 ぼくも「４」だと思う。この後まだ上がりそうだもの。 T6　みんな，この場面では「気持ちレベル」が上がったということでよいですね。 C13 そうです。 T7　なるほど。大きく分けると３つの場所になりますね。このＡ～Ｃのいったいどこで一番気持ちレベルが高くなったのでしょうか。それを課題にしてもよいですか。 【課題】じんざの「気持ちレベル」が一番高くなったのは、Ａ～Ｃのどこでしょうか。 T8　付箋に自分の考えを書いてみましょう。「Ａ～Ｃのどこか」と「『元気』『やる気』が上がったことが分かる文の中の言葉」を書きましょう。	ポイント」としていることを確認する。 ○　拡大教材において「気持ちポイント」に線を引かせる。授業者は同時にキーワードを黒板に位置付ける。 ○　前場面のレベル位置を確認し，それより上がっているか下がっているかで大体の位置を決める。 ○　５段階あるレベルのうち，「４」に位置付け，前場面より高まっていることを確認する。 手だて２ ３場面の「気持ちポイント」は「次の日」「それからの毎日」「サーカスの前日」の３つに分けられることを確かめ，それぞれをＡ～Ｃに位置付け最も変化が大きいところを問う。 ■　「気持ちポイント」を見付けている。(挙手・発言)
展開 4　個々の読み取りを，付箋に書き，グループで交流して「答え」を作る。 (10分) 5　Ｃで最も気持ちが高まっていることを叙述を基に確かめる。 (10分) まとめ	【期待する記述】 C14 Ａです。好きじゃないチョコレートを「目を細めてもらっている」からです。 C15 Ａです。「じんざはうれしかった」とうれしい気持ちが書いてあるからです。 C16 Ｂです。「のり出してうなずいて」話を聞いているからです。 C17 Ｃです。「男の子が明日サーカスに来る」ことを知ったからです。 C18 Ｃです。「じんざの体に力がこもった」と書いてあるからです。 C19 Ｃのところです。じんざの「目がぴかっと光った」と書いてあるからです。 T9　ここだと思う所にネームプレートを貼ってみて。 T10 分かれているようですね。これからグループで話し合いをします。①みんなの意見を順番に聞くこと②似ている考えをまとめること③「元気」「やる気」が上がったことが分かる言葉を書くこと　の３つのステップで進めますよ。ですが，話し合っても決められない時は，分かれたままでよいです。 1　付箋を画用紙上に提示しながら述べる。 2　同じ・似た意見を整理する。 3　「元気」「やる気」が上がったことが分かる言葉をホワイトボードに書く。 4　ボードを代表が黒板に貼り，付箋はノートに位置付ける。 C20 Ｃだと思うんだ。「目がぴかっと光った」と書いてあるね。やる気が出た証拠だと思うんだ。 C21 わたしも同じです。明日「火の輪を５つに」するくらいやる気が出ていることが分かるよね。 T11 黒板にみなさんの「答え」が位置付きました。確かめてみましょう。 T12 ネームプレートを動かしたい人はどうぞ。 T13 どれも正しい，ということでいいのかな。先生はＢなんじゃないかな，と思うんだけれど，「Ｃ」でよいですか。 C22「Ｃ」でよいです。じんざは男の子が毎日来てくれてお話しすることから元気ややる気を上げたんだけれど，男の子が明日サーカスに来ることが分かって「体に力がこもっ」て「目がぴかっと光っ」たりしているから，ここで「元気」が出ていることが分かります。 C23 付け足します。それだけじゃなくて，明日は火の輪を５つに増やそうとするくらい「やる気」が高くなったから「Ｃ」が一番よいです。 T14 なるほど，その意見に納得しました。気持ちだけではなくて体にも力が出てきているんですね。「Ａ」と「Ｂ」とを比べたら，「Ｂ」の方が高い，としてよいですか。	○　課題に対する自分の意見を頭括型で書かせる。 ○　その後のグループ交流で使わせたいことから付箋紙を用いて書かせる。 ○　解釈までは求めない。叙述の中から「やる気「元気」が高まったと思われる表現を挙げさせるようにする。 ○　付箋紙に書かせた後，黒板のＡ～Ｃのいずれかに自分のネームプレートを貼らせる。 ○　グループ交流を行わせる。「元気」「やる気」が最も高まったことが分かる表現を挙げさせる。 ○　いくつかのグループを指名して、根拠とする表現を確かめる。 手だて３ じんざのやる気の高まりをとらえるために，「Ｂではだめか」を問う。 ○　じんざの様子を表す言葉とじんざの気持ちを結び付ける。 ・男の子　・火の輪を五つに ・体に力　・目がぴかっと光った などをまとめにつなぐ言葉として黒板に位置付ける。 ○　３場面では，場面内で次第に気持ちレベルが上がっていることを確かめる。黒板のＡ～Ｃを気持ちの高まりを表す矢印でつなぐ。

6　本時のまとめを「今日のじんざ」に表す。 (3分)	C24 よいです。男の子が毎日会いに来てくれたから，だんだん気持ちレベルが上がってきていると思います。 T15 なるほどね。3場面のじんざはだんだん気持ちレベルが上がってきて、Cで一番高くなっているんだね。では，これまでの話し合いを使って，「今日のじんざ」を「まとめ」にしましょう。 Cでじんざの「気持ちレベル」は一番高くなっている。 男の子が，明日サーカスに来ることが分かって，火の輪を5つにするくらいやる気を高めたじんざ。	○　黒板や話し合いの様子を基に本時のまとめとして「今日のじんざ」を作る。 ■　場面内で気持ちが高まり，Cで最も高くなっていることが分かる。 （話し合い・見取り）
終末 7　1時間の学びを振り返る。 (10分)	T16 今日の学習を振り返ります。たくさんの気持ちポイントを見付けて，気持ちレベルが「4」まで上がっていることが分かりましたね。気持ちを上げてくれたのは，男の子とのおしゃべりや男の子の優しい気持ちだったことが分かりました。じんざは今日の場面でやる気を高めたことが分かりましたね。 T17 「振り返り」を書きます。「今日したこと」「じんざの気持ちレベルが上がった理由」「気持ちレベルが上がったことが分かる言葉」の3つを今日の「振り返り」のキーワードにします。 C25 今日は3場面のじんざを考えました。男の子が明日サーカスに来ることを知って気持ちレベルが上がったと思いました。「ようし，あした，わしはわかいときのように火の輪を五つにしてくぐりぬけてやろう」でレベルが上がったことが分かりました。 C26 今日は3場面のじんざを考えました。男の子が明日サーカスに来ることを知って気持ちレベルが一番高くなりました。目がぴかっと光ったことが「やる気」と「元気」が上がったところだと思いました。	○　黒板で本時の過程をなぞり，振り返りを書かせる。 ○　「気持ちポイント」を指し示し，「気持ちレベル」と関連させながら本時をなぞる。 手だて4　場面内の「気持ちポイント」をたどり，「今日のじんざ」を「まとめ」として書く。 ■　「今日したこと」「じんざの気持ちレベルが上がった理由」「気持ちレベルが上がったことが分かる言葉」の3つのキーワードで作文している。　（ノート）

（4）　本時の評価

B 評価　指定されたキーワードに基づいて3文で書いている。気持ちが最も高まったことが分かる「体に力が…」「目がぴかっと…」「ようし…」といった場所を選択して書いていればB評価とする。

6　板書計画



※拡大教材は，移動式黒板に貼り，黒板には添付しない。

7　参考文献

新編　新しい国語3下　教師用指導書　研究編（東京書籍株式会社）新しい国語編集委員会　編